

骨からつくる環境浄化材料

担当教員：環境科学研究科 環境素材設計学分野

○ 梅津 将喜 助教 (masaki.umetsu.d7@tohoku.ac.jp)

上高原 理暢 教授 (masanobu.kamitakahara.a6@tohoku.ac.jp)

開始日時：10月7日(火) 17:00 (応相談)

集合場所：青葉山キャンパス 環境科学研究科研究棟5階 505号室

動物の骨を高温で炭化して得られる「骨炭」は、天然の吸着材として古くから利用されてきました。現在では食品用途での利用は減少していますが、天然由来の高機能材料として環境浄化分野では依然注目を集めています。本研修では、骨の種類や加熱温度の違いにより骨炭の物性がどのように変化するのか評価します。さらにモデル汚染物質の吸着実験を通して、それぞれの骨炭の吸着特性について検討します。これらの実験を通じて材料の特性評価技術を習得するとともに、畜産廃棄物の有効活用や持続可能な資源利用に関する基礎的な知見を身につけることを目的とします。

